

がん登録情報を用いたがん罹患・進展におよぼす 喫煙習慣のリスク評価

伊藤 秀美* 増井 恒夫 田島 和雄

県地域がん登録は、県のがん対策を策定に不可欠な情報となるがん罹患の実態把握を目的とし、1962年から実施している。本登録事業は県健康福祉部の事業として運営され、その精度向上と活用に向けた技術支援をがんセンター研究所疫学・予防部が行っている。1999年度における新システム導入に伴い、登録患者の喫煙・飲酒習慣の実態調査を再開した。今回は、がん登録によって収集されたデータを用い、発生部位別によるがんの罹患・進展に及ぼす喫煙習慣の影響を比較し、評価したので主な結果を報告する。

県下で1999年から2003年に新たに診断され、2004年12月までに届出された20歳以上のがん患者は、80,924例であった。発がん要因として重視されている喫煙習慣の影響を各部位のがんについて相対的に評価するため、発生部位別に罹患者の喫煙習慣（非喫煙、禁煙、現在喫煙、不明）の分布を検討した。

喫煙習慣は、非喫煙、禁煙、現在喫煙、不明で、男では33.1%、20.9%、34.3%、11.6%、女では78.4%、3.2%、8.5%、10.0%とそれぞれ分布していた。男の口腔・咽頭、食道、喉頭、肺、膀胱がん、女の食道、喉頭、肺、膀胱がんなどで喫煙者の割合が高く、男の結腸、直腸、胆道、

皮膚、前立腺、甲状腺がん、脳腫瘍、リンパ腫、白血病、および女の結腸がん、乳房、卵巣、甲状腺がんでは喫煙者の割合が高かった。

次に、喫煙習慣ががんの進展に与える影響について検討を行った。解析対象から、喫煙習慣（喫煙者、非喫煙者）またはがんの進展度（限局、領域、遠隔）が不明である症例を除外した66,400例を解析対象とした。喫煙者は、非喫煙者に比べて、進展度が領域、遠隔となるリスクが高かった。部位別では、口腔・咽頭、喉頭、肺癌、乳房、子宮で進展度が領域となるリスクが有意に高く、肺、乳房で進展度が遠隔となるリスクが有意に高かった。以上より、喫煙習慣は生存率に関連するがんの進展度に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

がん登録事業の枠組みで収集される喫煙習慣の定義の不明確さが本研究の問題点であるが、一方、5年間にわたるがん登録患者を用いて評価したため、喫煙習慣の影響を総合的に評価でき、がん予防啓発に役立つ情報を構築できた。また、このように地域がん登録の情報を疫学的に評価し、がん予防推進のための情報として構築していくことは、地域がん登録事業への協力体制を啓発するためにも意義あることと考えた。

*愛知県がんセンター研究所 疫学予防部
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿 1-1
